

# 広見短歌会

うから等にかこまれ受ける花束よ成川荘の新緑すがし

高田 治子

晴れた日に遠くに見ゆる山脈は大野ヶ原のカルスト台地

兵田トミ子

先生のやさしき言葉の奥底に命短きを悟りて帰る

伊手リツエ

画仙紙にかな筆持ちて濃淡と線に苦心せし彼の日が浮ぶ

蛭谷 寿子

風薫る不器男の母校わが母校「風と遊べ」と校訓碑建ちて

武田 幸子

間伐の松の山は隙間より青空見えて空氣の清し

佐々木登美子

目暈する今日の予定はキャンセルし身動き出来ずひたすら耐える

西添 春子

お茶つみのそばでうぐいす競い鳴くりズムに乗りて手先も軽し

芝 幸子

集落の滝王様に幟立つ幼き想い出瓢箪菓子よ

二宮 安恵

長男の定年待ちて池の辺に桜桃の曲二本植ゑぬ

山本まつゑ

よく聞くわ年は何ぼと老いの身に

武田 浅美

マイク持ち唇乾く暇もない

宇都宮 忍

横槍は計算済みと我を通す

宮川 柳酔

パソコンを少し休めとドライアイ

合田 悦子

歯並びの良さと笑顔の優良児

都 瞳

起きたけど寝るまで爺は用はない

加藤 桂子

帰る家があるから楽し旅の空

宮岡 沙代

公約はご立派すぎる空手形

西原 敦子

惚けもせず人畜無害演じたい

金子すすむ

豆の筋取るのも人生修行です

財前 溪子

青春の花を八十路へ植えに行く

渡辺 光男

冗談が図星に触れて火花散る

宇都宮 孝

## きほく川柳会

### Andrew's Story【No.20】

## 「Thank you KIHOKU See you again」

夏の真只中、あっという間に僕の最後のコラムとなってしまいました。この5年間、鬼北町の皆さんは僕のお世話をたくさんしてくださいました。鬼北町を「ふるさと」のように思っている僕にとって、この別れは大変辛いことです。

僕の実家のことや、来日して体験したことなどをこの広報に書くにあたり、鬼北町の皆さんの温かさに囲まれながら、鬼北町のことを勉強したり、仕事をしたり、さまざまな経験をすることができました。それは何よりもありがたいことです。

よく、「鬼北町のどこが好きですか？」と聞かれますが、答えはいつも同じです。

鬼北町に住み始めた頃、僕は車を持っていませんでした。そのため、町内を徒歩や自転車で移動している際、出会った人に挨拶をすると、返事をしてくれました。その温かさに、僕はとても驚きました。鬼北町の皆さんはすごく優しい心を持っています。それが、僕の大好きなところなんです。だからこそ、この5年間とても楽しく過ごすことができました。

帰国しても、鬼北町のことを絶対に忘れません。そして、いつか、絶対に鬼北町の皆さんに会いに行きます。そのときには、「ただいま」と言います。鬼北町の皆さん、大変お世話になりました。そして、心から、ありがとうございました。



鬼北町外国語指導助手  
通称：アンディ  
アメリカ合衆国アリゾナ州出身